

特用樹種の増殖に関する研究 第11報

クスの結実促進について

佐藤 敬二
大久保 恭

鹿児島県白濁郡伏木町針林内の凡そ35年生の造林地で行った実験結果である。試験区は5区に分ち、第1区は標準区、第2区は同伐区で全本数の約50%を同伐し、第3区は施肥区で約60%同伐を行った後、窒素、燐酸、加里の量比が0:2:3となるように、母樹1株につき過燐酸石灰106g、木灰320gを施した。第4区は摘心区で約55%の同伐を行った後、第3区同様の施肥を行い、5月半ば頂新梢の水化しない前に、その先端を摘去し、再ら強勢梢の発育を抑制して、既成の部分に養分を集積せしむるようにした。第5区は剥皮区であつて、約50%の同伐を行った後、5月中旬に枝の一部に0.5~1.0cmの環状剥皮を行い、剥皮の深さは形成層に達する程度とした。なお施肥の方法は、先ず母樹の根元から半径1m位の円周上に幅30cm、深さ30cm位の溝を掘り、剪根を行い、円内の雜草木を除去し、4~5箇所前述の肥料を投下して、土覆を行うこととした。各区共面積は0.12haである。

以上の處理は昭和17年の春に行つたのであるが、昭和18年の春には早くも、第2区の同伐区に1本、第4区の摘心区に1本、第5区の剥皮区に1本、合計3本の同伐を見、同年12月の調査によれば、いずれも相当の結実が得られた。更に翌19年5月の調査に於ては、同伐区に5本、摘心区に2本、剥皮区に2本、合計9本の母樹に豐實な開花が見られた。その秋の調査の際には、結実量の多い母樹からは1本で3升余の種子が得られた程で、5本には多量、2本には中量、2本には少量の種子が結実した。同国針林のクス造林地数十歩の地の部分には採草地内に於ても、採草地外においても、昭和18、19年とも全く結実を認めなかつた。昭和20年、21年両年の調査は戦争中並に戦後の事情で出来なかつたのが遺憾である。

特用樹種の増殖に関する研究 第12報

クスの挿木について

佐藤 敬二
江口 昌介

昭和17、18両年に行つた宮崎県宮崎郡田野町針林業試験場田野分圃に於ける試験採果の報告である。

挿木の時期については、採穂後直ちに挿付けたものも、採穂後1~3日河水に浸漬して所謂水揚